

自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、1月9日（火）～1月12日（金）の3泊4日の日程で、教育事業「自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）養成事業」を開催しました。この事業は、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動を推進する担い手を養成するものです。参加者は、国公立青少年教育施設職員、大学生など14名が参加しました。

初めに、主任講師からNEALインストラクターとリーダーの違い、インストラクターの役割について、さらに今回の研修の肝である企画と評価について、リーダーを指導する立場にある事を確認し講習がスタートしました。そして、4日間の講習の流れと1日ごとのねらいを確認しました。

【1日目】ねらい：学校教育と体験活動の関係を学び、受講生同士の交流を深める日

「自然体験活動の安全管理」では、安全が自然体験活動の可能性を高めることや安全にはここまでやれば大丈夫はなく、常に事故は起こりえると考え安全を実現できる仕組みをつくるのが大切であることを学びました。その後心肺蘇生法の実習を行いました。

「学校教育における体験活動」では、総合的な学習の時間の体験活動は、ただ行うことではなく、探求的な学習の過程に適切に位置付けられる活動であり、自分の身体を通して外界の事物や事象に働きかけ学んでいく活動であることを学びました。



「自然体験活動の安全管理」
心肺蘇生法を学んでいるところです。



「学校教育における体験活動」
講師と受講生の対話形式の講義でした。

【2日目】ねらい：自然体験活動の指導のしかたを習得する日

「自然体験活動の特質・指導」では、インタープリテーション（自然と人との橋渡し役）について体験活動を通し学びました。その後グループごとにプログラムを考え実施しました。大切な自然にしっかりと目を向けること、よく観察することを実際のプログラムを通して学びました。

「対象者理解」では、自然体験活動における指導者の役割とは、子どもたちが、安全で、安心できる環境の中で、自然の中での生活と自然の中での活動を楽しむことができるように支援することであることを学びました。



「自然体験活動の特質・指導」



「自然の中でプログラムデザイン」
デザインしたプログラムを他のグループに体験してもらいました。

【3日目】ねらい：自然体験活動の指導者として一つ上のスキルを学ぶ日

「自然体験活動の技術」では、現代は多くの一般家庭の生活の中から「火」が失われ、児童に火をあつかわせるには、マッチの擦り方から指導する必要がある。だから、指導者は児童の多くが家庭では禁止されている火を、ある日突然使うことになる場合があることを意識して、指導していくことが大切であることを学びました。

「自然体験活動の企画・運営」では、プログラムデザインとは、企画者や依頼者の想いや願いに、社会背景やニーズを考慮し、活動プログラムを組み合わせながらカタチにする（デザインする）ことであり、必ず目的（ねらい）を設定することが必要であることを学びました。また指導者として、困ったときに頼れる関係を作るなどのネットワーク作りにも心がけるとことも学びました。



「自然体験活動の技術」
火おこしの講義中です。



「自然体験活動の企画・運営」
グループでの企画を、グループごとに発表しました。

【4日目】認定試験・閉講式を行いました。

アンケートの内容をまとめると
「スキルアップや自然・環境・教育について、思っていた以上の学びを得ることができた。」
「日常ではつい見落としがちな安全や指導の際のねらいが改めて重要だと気づかされ、技術手法も学ばせて頂きました。」
といった感想がありました。

担当：企画指導専門職 小倉 祐司